

市川勢の軌跡

▷15◁

市川勢と同様に保守門 武田のに親類されると考
 闕派ながら、行動を共に えたからだ。
 しなかった職工は多い。 そして、六月三日に水

内藤跡太夫もその一人。 戸を脱出する。そのとき
 「雲のふみの夢」は、 の心境を、内藤は「余は
 内藤の藩内の立場を「天 去る、怯懦政府の下に屈
 狗にもめめず市川等にも て生を求むる」とを欲せ
 服従せず、中間にあった す、いでや朝敵に加はり
 のが近藤藤太夫や内藤、 て藩府の為に快く打死せ
 石河幹治郎」と指摘して んぞ、彼藩人等（武田
 い。

美濃部又三郎の二男と して生まれ、二十歳のと
 香川藤家を継ぐ。 又藤は
 二百石。 藩校弘道館の教
 授など務める。
 内藤は、武田金次郎が
 江戸を出て水戸に向かう
 直前の五月二十日には自
 宅を難れ、城下に隠れ
 る。その理由は、天狗党
 が挙兵した際、これを取
 り締まる立場にいたので

維新後は文科大学教授に

潜伏した内藤

勢のいこが凶暴にかか で仲間数人と落ち合う 流。 総勢約六十人となっ
 りて大死せんには非ざる が、仲間は太田・常陸太 奥州湯野川に至り、
 ぬへ」と自らの回顧録 田市では数十人に増え 内藤は吉野に一隊を預
 「悔慚録」に記してい た。 さらに北上し、大中 け、自分ひとり会津に向
 ・小中・同市・辺りで言 かう。 会津城に入った内 会津城が落城する直前
 野英三のグループと合 戦は、会津藩兵とともに に逃れ、さらに仙台に逃



内藤が身を隠した一関の鈴木家に残る内藤が墨書した陣羽織（写真は小林義忠氏提供）

白河城を攻撃したり、会 津城を守るために重師的 な役割を果たしたという が、それを裏付ける会津 側の資料は見当たらな い。
 会津城が落城する直前 に城を出た内藤は、米沢 へ逃げ、さらに仙台に逃
 れる。しかし、水戸藩の 邊手が迫っているという わらに内藤、藩主一関の 御用奉行まで足を延ばし、 下駄職人の鈴木留五郎方 に潜伏すること一年余。 津及を逃れた。世話にな った鈴木家に内藤は、陣 羽織を形見として与え、 いまに伝わっている。
 戊辰戦争が終わった後 の明治二年、内藤は住ま いを山形に移し、翌年に は本名を伏せて山形県庁 に就職する。時代が変わ っても愛憎するほど天狗 藩士の争いの遺恨が強く 残っていたというわけ だ。その後、東京に出 て、明治十九年、文科大 学（東京大学の前身）教 授となる。六十歳だっ た。その翌一徳川十五代 史一は、史学界の高い評 価を得た。
 （福澤水曜日掲載）